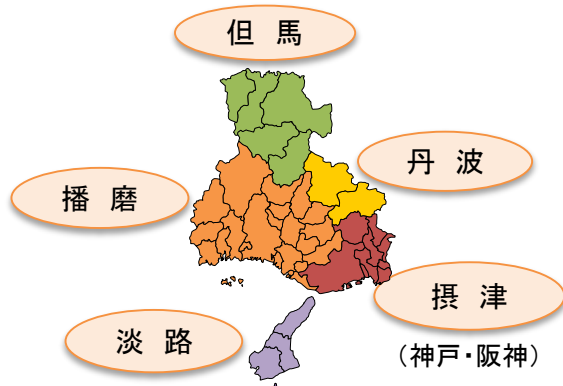




- 人口減少、高齢化の進展によって活力が失われつつある多自然地域において、小規模集落等が主体的に行う都市との交流、自立的なにぎわいづくり等の取組を支援
 「多自然地域」・・・農山漁村や中山間地域を包含、「市街地」や「都市部」以外の地域全体の総称
 「小規模集落」・・・世帯数50戸以下で高齢化率(65歳以上比率)40%以上の集落
 (市街地およびその周辺、駅周辺などを除く)
- 時代背景
 少子化、高齢化、人口減少、人口の偏在、グローバル化、平成の大合併、国地方の膨大な赤字

「日本の縮図」－ 大都市～農山漁村



ひょうご地域再生大作戦の展開

地域活性化に立ち上がる住民

- ・住民の意識の高揚
- ・活動取組意欲の芽生え



むらの将来
検討会議(佐用町)

行政による支援

- ・アドバイザー等の派遣
- ・市町・県職員の参画
- ・補助金交付
(ソフト・ハード事業)
- ・都市部での農産物の販売
- ・大学・NPO等とのマッチング

地域再生大作戦

地域住民の自主的な活動

- ・話し合い
- ・事業の実施
- ・多様な主体の参画推進

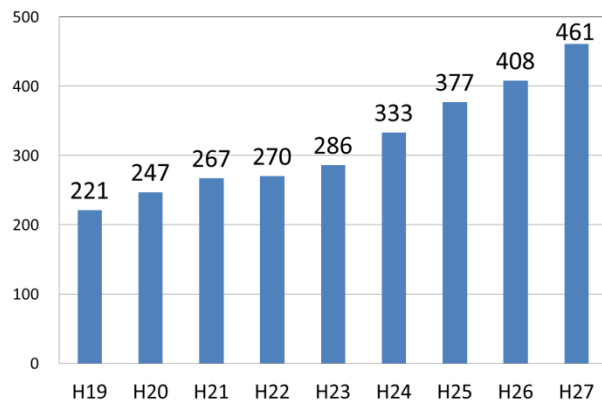


大学と地域住民との連携(丹波市)



都市部住民との交流会(神戸市)

多自然地域の小規模集落数の推移



ひょうご地域再生大作戦

□ 目標

- ・安心して豊かな暮らしが営める地域の形成
- ・個性豊かで多様な人材の確保
- ・多様な就労機会の確保

多自然地域の現状

- 人口減少 □ 高齢化
- 生活不便 □ 経済雇用格差
- 耕作放棄 □ 空家の増加
- 森林荒廃 □ 鳥獣被害



多自然地域の役割

- 水源涵養 □ 生態系の保全
- 食料供給 □ 環境の保全
- 保健・休養の場の提供
- 洪水防止、土壌浸食等の防止



集落の機能

- 生活(暮らし)の場&生産活動の場
- 農地維持 □ 共同作業
 - 文化・知恵の継承
 - 高齢者の福祉 □ 神社・墓の維持
 - 冠婚葬祭の運営



地域再生大作戦の特徴

- 都市との交流・相互補完
- 多様な主体の参画
“若者” “よそ者” “ばか者”
- 新しい地域づくり
計画、しくみ、ことはじめによる人づくり



地域の変化

- プラス志向
 - ・地域資源の再発見
 - ・祭りの復活
- 開かれた空間
 - ・都市住民との交流
 - ・カフェ、レストラン
- 新しい関係の構築
 - ・地域協議会
 - ・連携・ネットワーク化

成 果

- にぎわいづくり
- コミュニティの再生
- 人材・資源の掘り起こし
- 集落ビジネス、ブランド化
- マンパワー不足の解消
- ふるさと意識の醸成
- 食をキーワードとした活性化
- 自主的な情報発信

地域再生5つのポイント

- 1 「地域の課題が何か」をきちんと見つめ、共有する
- 2 現場で考え、成果が「目に見える」取組をする
- 3 「参加しやすいきっかけ」を工夫する
- 4 取組の経緯や成果を「地域に伝える」
- 5 基本となる地域における「自己実現、自己表現」

新たな地域づくりの視点

- 1 地域単位の広域化ないし「むらづくり協議会」化
- 2 女性参画から次世代を含めた総世代参画への広がり
- 3 地域外からの参画の受入れ
- 4 「地域を誇る交流」へ転換
- 5 地域産業の多角化
- 6 地域資源の保全的活用



ひょうご地域再生大作戦の事業概念図 (H25)

○の中は取組み地区数

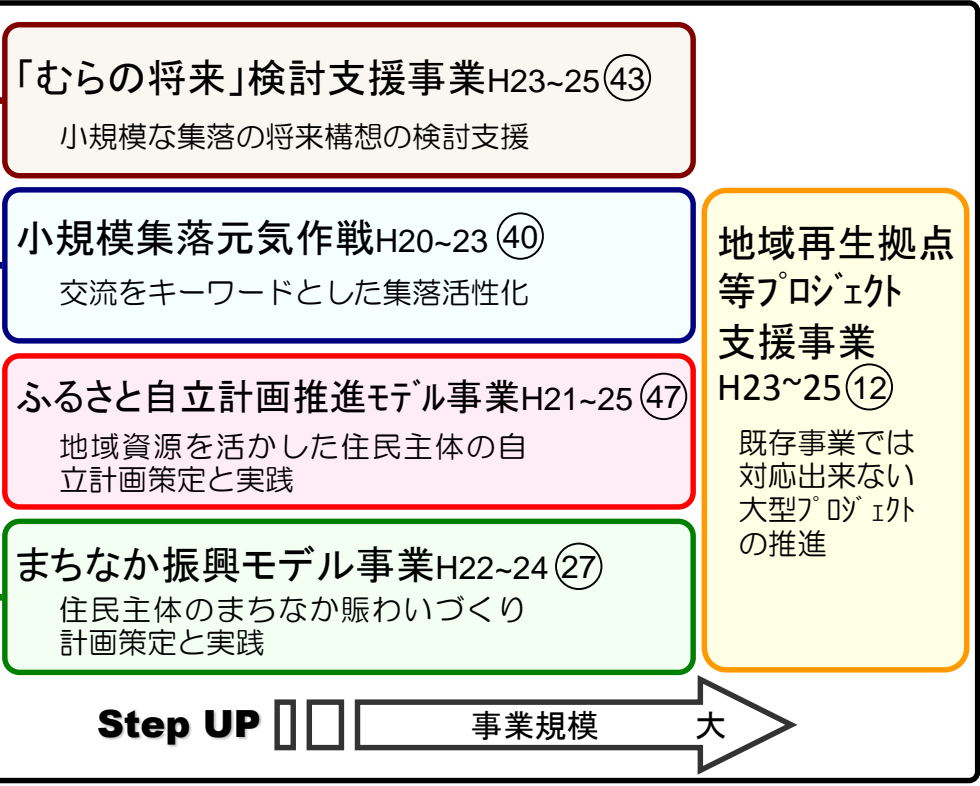
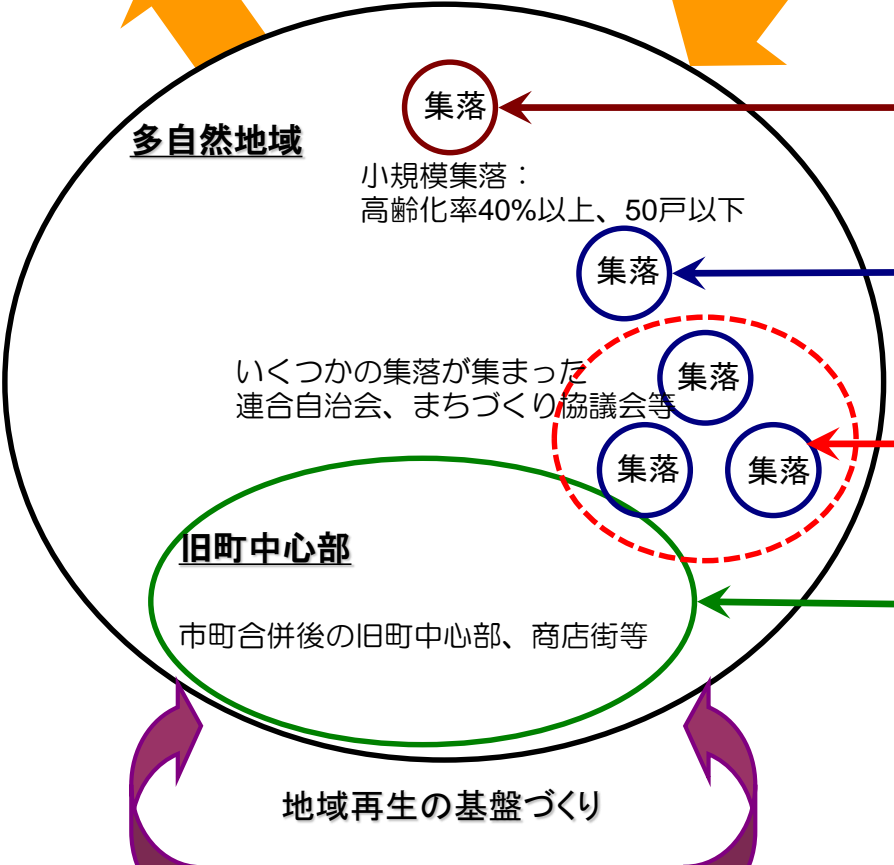
元町週末マルシェの開催 H25
都市部での農産物の販売

大学連携による地域力向上事業H25~27 (16)
大学による地域活性化活動への支援

地域再生応援事業H22~24 (39)
域外の団体による地域活性化活動への支援

都市部での販売とPR

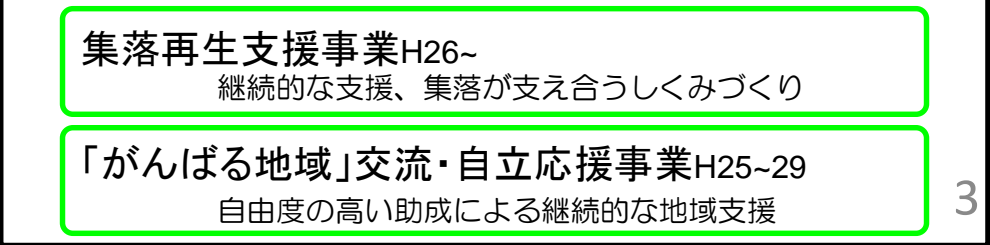
地域外団体による応援 モデル事業



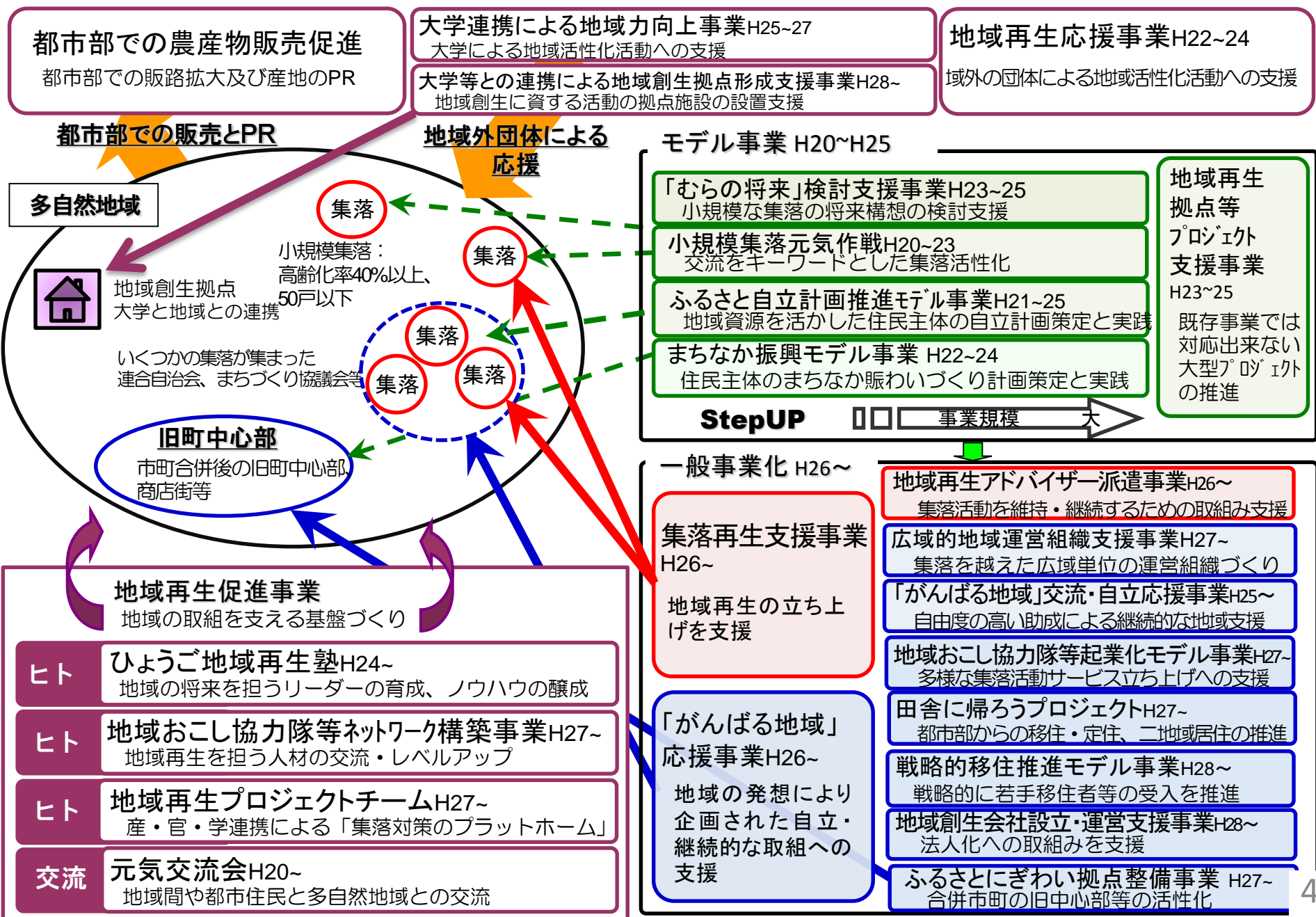
一般事業化

ヒト ひょうご地域再生塾H24~
地域の将来を担うリーダーの育成、ノウハウの醸成

情報 地域再生大作戦PR事業H25
「地域再生大作戦」取組状況のPRによる参画促進



ひょうご地域再生大作戦の事業概念図(現在)



STEP1

立上げと交流

- ・住民の意識の高揚（気づき）
- ・活動取組意欲の芽生え



市町・県担当者の助言
・事業メニューの紹介

住民中心の話し合い（ワークショップ）による地域の計画づくり（将来像の共有）

- ①地域の強み・課題などを抽出
- ②めざすべき方向性の決定
- ③取組事業の抽出と優先順位づけ



専門家（アドバイザー）による会議進行・アドバイス



■地域活性化に向けた取組の実践（地域内外との交流ベース）

①地域内の交流

- ・コミュニティカフェ
- ・各種教室（体操、料理）
- ・定期的な寄り合い

②地域外（都市）との交流

- ・稲刈り等農村体験イベント
- ・市民農園
- ・都市住民による協働、にぎわいづくり

住民合意や計画に基づき、継続的に地域活動を行うための“しくみ”づくり

- ①”稼ぐしくみ”づくり
- ②多様な活動主体の参画
- ③人材育成と組織活性



①”稼ぐしくみ”づくり

- ・特産品開発
- ・農水産物ブランド化
- ・販路拡大、直販所確保
- ・耕作放棄地の活用



②多様な活動主体の参画

- ・高齢者、女性、若者
- ・NPOおよび大学連携
- ・外部人材を活用



③人材育成と組織活性

- ・リーダーの育成
- ・次世代担い手の発掘
- ・組織の分科会化
- ・出身者との連携



活性化の取組が継続し、地域が持続的に成り立っていくための“未来”に向けた投資や活動

- ①地域のブランド力向上
- ②住民主導による住民サービスの向上
- ③担い手の循環、世代交代

①地域のブランド力向上

- ・ファン拡大、地域応援団
- ・メディアを通じたPR
- ・企業活動との協働



②住民主導による住民サービスの向上

- ・コミュニティバス
- ・高齢者・福祉サービス
- ・再生可能エネルギー



③担い手の循環

- ・定住・二地域居住促進
- ・婚活推進
- ・ふるさと教育
- ・農業従事者の確保



STEP2

事業化と自立

STEP3

持続と循環

『ヒト』

①リーダーとサブリーダー

—持続的な地域活性化を—

- ・地域を引っ張るリーダーが必要です。さらにリーダーを支えるサブリーダーや事務担当者などがいれば、活動はより活発になります。
- ・同時に、次世代のリーダーの育成も進めておくことも重要です。

②女子力の活用

—女性の得意分野を生かそう—

- ・売れる特産品づくり、観光客を呼び込む企画などに、女性の視点は欠かせません。
- ・地域の活動において“顔”が見えにくい女性を表に出すためには、「食」など女性の得意分野の活動を行うことが有効です。

③学生との協働

—外からの視点を加える—

- ・地域活性化に必要と言われている「若者」「よそ者」「ばか者」の視点。その全てを持ちえる学生の視点を加えることで、地域に新しい価値が発見できます。
- ・また、若者が集落を訪れ、住民とふれあうだけで、地域が明るく、元気になれることが多くあります。

『モノ』

①地域に「あるもの」を活用

—都会の人にとっては“お宝”かも！—

- ・特産品や観光名所をつくり出す際には、地域にないものではなく、地域にもともとあるものに光を当てましょう。

②「食」がキーコンテンツ

—やっぱりみんな食べ物が好き—

- ・ご当地メニューや特産品など消費者目線で商品化を進めましょう。
- ・商品のブランド化や販路開拓などには、専門家の力を借りるのも有効な手段です。
- ・食のほかには、「景観」「灯り」が有効な手段です。

③文化・伝統・達人

—地域資源は、モノだけではない！—

- ・地域特有の文化・伝統、また特技や昔ながらの知識・ノウハウを持った〇〇の達人（まち歩きガイドも含む）も大切な地域資源です。

『カネ』

①投資は最小限に

—小さな成功体験を積み重ねよう—

- ・初期投資はできるだけ最小限に抑え、小さな成功体験を積み重ねることが、活性化の近道です。
- ・コミュニティビジネス専用の口座をつくって、収支管理を行うことも有効です。

②補助金を有効活用

—初期投資だけと考えよう—

- ・補助金は、初期投資だけに利用しましょう。補助金を使える間に、補助金がなくなっても事業を継続できる“しくみ”を作っておきましょう。

③事業の採算性を考慮

—少額でもお金が循環するしくみを—

- ・事業に取り組む際には採算性を常に考慮に入れておくことが、事業継続には必要です。
- ・ボランティアよりも、少額でも報酬が発生するしくみがあれば、活動が長続きする可能性が高まります。

『情報』

①インターネットの活用

—口コミ情報を広げよう—

- ・インターネット（特にSNSなど無料サービス）を有効に活用し、口コミ情報を広げましょう。
- ・特産品開発や拠点整備などについては、その過程も伝えるなど、ストーリー性のある情報発信を心掛けましょう。

②ファン・地域応援団を作ろう

—継続的な関係づくりを—

- ・交流イベントなどの参加者に地域広報誌の送付Facebookのファンになってもらうなど継続的な関係づくりを心掛けましょう。
- ・地域の出身者は最も優良なファン候補です。帰省の際に地域の将来などについて語り合しましょう。

③地域のブランド化

—パッケージにひと工夫！—

- ・特産品などはそのパッケージングによって、売れゆきが全く違ってきます。ロゴの統一やデザインを活用など、地域と商品両方のブランディングを心掛けましょう。

ひょうご地域再生大作戦のモデル事例

地域経営型モデル(佐用町江川地区)

- ・旧小学校区 11集落 1,097人
- ・H18:江川地域づくり協議会設立
- ・H23:ふるさと自立計画推進モデル事業
- ・H23:第1回陰陽師イベント開催
- ・H26:江川小学校閉校

生活支援、地域交流、地域ビジネス等の総合的な展開

- ・生活支援サービスのしくみづくり
- ・交流イベントの実施
- ・「稼ぐしくみ」づくり

くらし

ふれあい喫茶
(H23～:月3回開催)



デマンドバス(H24～)
10人乗りワゴン、
町公用車を無償貸与



イベント

陰陽師の里づくり



周辺整備



なりわい

特産品開発
(H24～:特産の菓の加工)



都市部での農産物販売



交流・体験型モデル(宍粟市鷹巣地区)

- ・旧小学校区 1集落 246人
- ・H23:千種東小学校閉校
- ・H23:鷹巣活性化委員会設立
- ・H24:ふるさと自立計画推進モデル事業
- ・H25:旧小学校活用によるふれあい喫茶・ふれあい食堂(月1回開催)

農村体験等による地域住民及び都市住民との交流の展開

- ・宿泊型体験施設の整備
- ・農村体験イベントの実施
- ・ふれあい喫茶、ふれあい食堂の実施

ふれあい食堂(月1回土曜夜開催)



ふれあい喫茶(月1回土曜昼開催)



宿泊体験施設「たかのす東小学校」整備(H26)



炭焼き窯



農村体験イベント
・炭焼き体験
・つるし柿体験
・収穫体験



地域ビジネス型モデル(篠山市雲部地区)

- ・旧小学校区 9集落 909人
- ・H18:くもべまちづくり協議会設立
- ・H22:雲部小学校閉校
- ・H23:ふるさと自立計画推進モデル事業
- ・H25:合同会社里山工房くもべ(住民出資により設立)

地域資源を生かした「稼ぐしくみ」づくり
・直売所、加工施設、レストラン等の整備
・空きスペース、空き施設等の有効活用
・企業化による資金確保、体制強化

里山工房くもべ(H25.11～)



農村レストラン(金土日営業)



直売所(金土日営業)

加工所



加工品



生きがい創造型モデル(新温泉町海上地区)

- ・単独集落 115人
- ・H19:「海上棚田米うみやーなー」商品化
- ・H21:小規模集落元気作戦
- ・H24:第1回収穫祭開催

自分たちが楽しむ「生きがい」づくり

- ・地域の憩いの場の整備
- ・小遣い稼ぎ程度の手軽な取組の実施
- ・地域での交流会の実施

※旧奥八田小学校区(7集落)での広域的
事業展開について協議中



特産品

「うみがみ元氣村」整備(H23)



憩いの部屋
(24時間利用可能)

元氣村食堂

直売所



収穫祭



元氣村食堂
(水土日 8:30～17:00、
予約の場合営業日以外でも利用可)



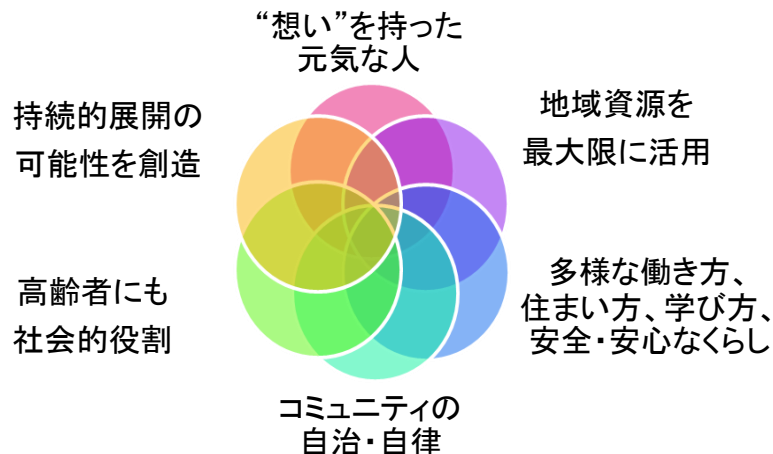
ひょうご地域再生大作戦の展開



地域創生（兵庫県地域創生戦略）

- 人口減少下においても、地域が活力を維持し県民が将来への希望を持てる社会をつくる
- 個性ある多様な地域の中で心豊かな暮らしの実現
- 二地域交流等で県内での交流が進み、国内外からの来訪者があふれる
- 一人ひとりがその持てる力を最大限に発揮でき、社会を支える主人公となる

地域の将来像



課題

- 多様な主体の参画、促進
- リーダー（サブリーダー）の育成
- 「稼ぐしくみ」づくり（集落ビジネス・6次産業化）
- 持続性を高めるしくみづくり
- 情報発信の強化



買物支援（上郡町）



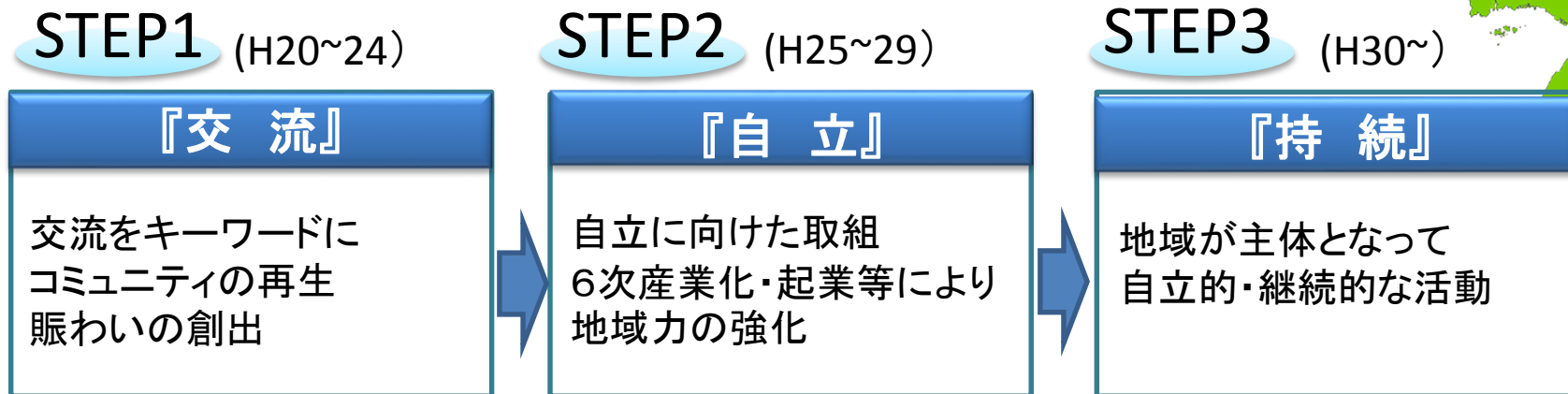
ひょうごの元気ムラ Facebookでの情報発信



政策の方向性

- 持続可能な体制づくり
 - ・稼ぐしくみづくりの構築
 - ・旧小学校区単位等による新しいコミュニティの構築
- 人材の多様性の確保
 - ・女性、高齢者を含む多世代の参画促進
 - ・地域おこし協力隊など外部人材の確保
 - ・6次産業化、起業化の促進

ひょうご地域再生大作戦の展開



□持続可能な体制づくり

□人材の多様性の確保

新しい地域コミュニティ＝「地域運営組織」(集落の連合体)

- ・ 個人単位で参加するしくみ
- ・ 役員に女性・若者を積極的に起用
- ・ 地域に関わろうとする都市住民やNPO等も受入
- ・ 役員任期を3－5年とする

地域運営組織について

- (1) 組織形態：NPO法人、一般社団法人、合同会社等
- (2) 活動範囲：旧町単位(≒中学校区)～旧小学校区程度を想定
- (3) 事業領域：具体的な事業・サービス分野
 - ① 集客・交流事業・・・レストラン運営、宿泊施設運営、交流イベント等
 - ② 人材育成事業・・・インターンシップ受入、農業オペレーター育成等
 - ③ 6次産業化・エネルギー事業・・・特産品開発、加工販売、発電施設の運営等
 - ④ 維持管理事業・・・耕作放棄地解消、雪おろし作業、空家管理等
 - ⑤ 生活支援・移動・流通事業・・・デイサービス、デマンドバス運行、移動サービス等
 - ⑥ その他・・・公共施設の指定管理、市町事業の委託等



(一社)生田村
「そばカフェ生田村」(淡路市)

地域運営組織の法人化について②



法人化の利点

- 社会的信用の増加
- 組織の安定性・継続性の確保
 - ・代表者等が変わっても組織維持が可能
 - ・資金調達の手段が増加
 - ・法人名で不動産登記、銀行口座の開設が可能
 - ・外部人材等の継続雇用を担保

法人化の課題

- 財務会計手続が専門化・煩雑化(決算書類の作成、法人関係税への対応など)
- 事務局体制を確保することが必要(財源、人材確保が困難)

今後の取組支援

- ①人的支援
法人化に向けた経営・法務・財務等の専門家、地域再生アドバイザーの派遣等
- ②財政支援
 - ・法人化に向けたプロセスを総合支援する補助金の創設
 - ・地域おこし協力隊OBやUJIターン者の雇用支援の充実
 - ・クラウドファンディングやふるさと納税等による融資・寄付の確保支援策の創設等
- ③情報支援
普及啓発・人材育成のための研修の充実、県庁内の他部局の支援制度の周知等
- ④市町との連携強化

